

教育研究創発国際研修における学術活動報告書

令和 6 年 10 月 4 日

氏名 辻 優太郎

所属 学校開発政策 コース

指導教員名 村上 祐介 教授

1. 研究課題 EUA Funding Forum 2024 における研究発表
2. 報告する学術活動の実施期間 令和 6 年 10 月 2 日 ~ 令和 6 年 10 月 4 日
3. 日本学術振興会特別研究員 (DC) の現在の採用状況 DC1 DC2 採用無し
4. 学術活動
 - 国外 国内
 - ①英語論文公表
 - ②研究科教員の研究プロジェクト参加
 - ③フィールドワーク
 - ④国際会議 (研究発表 運営補助 出席のみ)
 - ⑤研究会 (研究発表 運営補助 出席のみ)
 - ⑥研究指導委託
 - ⑦留学
 - ⑧国際研修
 - ⑨国際インターンシップ
 - ⑩その他 (具体的に:)

5. 学術活動実施の概要

※上記4で選択した学術活動について具体的に記載してください。括弧内の概要を必ず記載してください。

- ① 英語論文公表
(著者、発表論文名、掲載誌名等、発表年月巻号、発表年月日等、論文内容の概要)
- ② 研究科教員の研究プロジェクト参加
(プロジェクト名、代表研究者名、自身の具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、プロジェクトの概要)
- ③ フィールドワーク
(調査先機関等、国名・都市名、具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、調査先の概要)
- ④ 国際会議
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、学会・会議名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑤ 研究会
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、研究会名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑥ 研究指導委託
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究、研究テーマと受入教員、受入期間(年月日)、具体的な研究活動、研究発表内容等の概要)
- ⑦ 留学
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究科、受入期間(年月日)、具体的な履修状況、研究発表内容等の概要)
- ⑧ 国際研修
(プログラム名、派遣先機関、国・都市名、派遣期間(年月日)、プログラム概要、研究発表内容等の概要)
- ⑨ 国際インターンシップ
(プログラム名、派遣先機関、配属部署、国・都市名、派遣期間(年月日)、具体的な活動、プログラム内容等の概要)
- ⑩ その他(具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度等の概要)

学術活動区分 (①～⑩を記入)	④
<p>【学会・会議名】 European University Association Funding Forum 2024</p> <p>【国・都市名】 ヘルシンキ(フィンランド)</p> <p>【発表題目名、形式、年月日】 Different starting lines: Lessons from Japan’s performance-based funding experience (口頭発表、2024年10月4日)</p> <p>【発表内容等の概要】 ヨーロッパ大学協会(EUA)が主催する、高等教育機関への資金配分をテーマとした国際会議において、国立大学法人運営費交付金における事後的な実績評価に基づく配分の政策形成過程、および実施結果に関して申請者がこれまで実施してきた研究の知見を発表した。</p>	

- (注) ① 年月日は西暦で記入してください。
 ② 英語論文発表については報告する学術活動において発表又は受理されたもの。
 ③ 上記に記載しきれない場合は、ページを追加しても差し支えありません。
 ④ 複数回の学術研究活動による報告の場合、適宜本ページを追加し、2つ目以降についても必要な内容を網羅してください。

6. 学術活動による成果

※報告する学術活動について、教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究開発国際研修の趣旨に照らし、その成果を具体的に記載してください。学術活動により得られた自身の研究課題につながる成果についてもわかるように記載してください。

※本欄に書ききれない場合、ページを追加しても差し支えありません。

本活動では、ヨーロッパ大学協会（EUA）が主催する高等教育機関を対象とした資金配分に関する国際会議（EUA Funding Forum 2024）において、申請者のこれまでの研究で得られた知見を発表した。これにより得られた成果は以下の2点に要約できる。

第1に、国際的な成果の発信にあたっての示唆が得られた。当日の発表においては、複数のオーディエンスから、日本の事後的な実績評価に基づく配分に関する質問を受けた。今後英語論文として成果を発表する際には、日本におけるシステムに関する前提知識がない読者を想定して記述する必要があり、それにあたって今回受けた質問は大いに参考になるものである。

第2に、研究テーマを同じくする研究者、および実務家とのネットワークを形成することができた。今般のフォーラムは、ヨーロッパ各国の研究者に加え、大学における財務担当者など、200人超が参加する大規模なイベントであり、唯一無二とも言ってよいネットワーキングの機会であった。全日程を通してそれらの参加者と交流する機会が設けられており、様々な国・属性の人と知り合うことができたのは、非常に大きな収穫である。また、面識を得るだけでなく、相手方の所属機関への訪問について相談するなど、今後の交流に向けた契機にもなっている。得られた繋がりを今後の研究に活かしていきたい。